和歌山大学教職大学院

大学院教育学研究科教職開発専攻

学校教育の未来を担うリーダーを養成します！

5つの特色

1 研究者教員・実務家教員の協働による充実の指導体制

専門分野の理論と実践の融合を図ってきた大学教員だけでなく、教育実践が全国レベルで評価されてきた先生、和歌山県下で現職教員の指導で活躍している先生、和歌山県下で先進的な学校経営を行ってきた校長経験者などの実務家教員を加えた充実の指導体制を備えています。
また、院生のテーマや学習状況に応じて、少人数できめ細やかな指導を行っています。

2 和歌山県特有の課題に応じたカリキュラム

「和歌山県における家庭・地域と連携した学校づくり」、「小規模校支援」など和歌山県の課題に応じたカリキュラム構成で、地域の課題について理解を深め、解決に取り組むための視座を学習します。

3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

～学位授与の方針～

和歌山大学の目的及び使命並びに教育学研究科の目的に基づき、研究科の専門教育を通して、「学び続ける教師」として次の目標に到達していると認められる者に教職修士（専門職）の学位を授与する。

1. 高度な専門性と研究力
   - 学校教育において教育活動を行うための高度な専門的知識や実践力を身につけている。
   - 学校や教育実践に寄与するために、課題解決に取り組むための力量を有している。
   - 自律的に課題を発見・解決する柔軟な思考力や研究遂行力を身につけている。
   - 短期的・長期的な視野に立ち、反省的実践者としての省察に基づいて教育活動の改善に取り組むための力量を有している。
2. 協働性と倫理性
   - 基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を高度に展開するための基盤を有している。
   - 研究倫理を順守し、教育の発展に寄与する高度な研究活動を行う基盤を有している。
3. 地域への関心とグローバル視点
   - 地域をグローバルな視点から理解し、地域社会と協調的な関係を構築するための高度な専門的知識や技能を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

～教育課程編成・実施の方針～

【教育課程編成の視点と内容】

1. 「学び続ける教師」として求められる高度な専門的知識や技能を身につけるため、体系的・系統的なカリキュラムを設定する。その内容は、専攻共通科目（専攻共通基礎科目及び専攻共通深化科目）、コース専門科目、実習科目、実習関連科目及び修了研究に分類する。
2. 教育課程の編成に際しては、以下の内容を視野に入れる。
   - 最新の専門理論・技術と実践の架橋
   - 地域の学校・子どもの実態、必要性に応じた実践を行うための理論・技術の修得
   - 時代が求める教育を地域に応じて展開できる理論の修得と実践

アドミッション・ポリシー

～入学者受入れの方針～

【求める学生像】

教育学研究科では、「学び続ける教師」として、次の各要素を備えた人物を求める。

1. 学士課程の学びを通して大学院入学後の学校教育に関する高度な専門的知識を学ぶ基礎となる能力・技能・研究力を有する人。教職経験を通して実践知のある人
2. 主体的に新しいことに挑戦し、学校教育の分野において社会に貢献しようとする意欲や態度を有する人。教職経験を通して反省的実践者として学び続ける意欲を有する人
3. 明確な目的意識を持ち、他者と協働して学校教育の分野における課題解決に取り組む意欲や態度を有する人。教職経験を通して学校や教育実践に寄与するという意識を有する人
4. 学問や研究に真摯に取り組む態度を有する人
5. 基本的人権を擁護し、円滑なコミュニケーション能力を有する人

3 現場と連携し、理論と実践を融合する実践的カリキュラム

1年目は毎週1回インターンシップに取り組み、現場の指導者と大学院教員とのカンファレンスを行うことで、大学院で学んだ理論と現場の課題を融合させ、より実践的な学習と省察に取り組みます。

4 福祉分野との統合による子どもの全体的な支援を考えるコンテンツ

特別支援教育だけにとどまらず、福祉分野の専門家による「教育と福祉の連携」、「問題行動と保護者との連携」などの科目によって、子どもの育ちや環境を全体的な視点で考え、学校と福祉が連携した支援体制のあり方を考えるコンテンツを用意しています。

5 Society5.0に向けた学習環境を実現するアプローチ

ほとんどの授業が研究者と実務家教員等によるティーム・ティーチングで行われ、アクティブ・ラーニングやICTの積極的活用などを実際に経験しながら、Society5.0に向けた学習環境づくりについて考えを深めるとともに、それらを準備する実践的態度を養います。

養成する教師像

学校改善マネジメントコース　現職教員　勤務経験10年程度、またはそれ以上を対象

これまでの経験を学校経営という観点から整理・意味づけを行い、新たな知識とミドルリーダーとしての力量を修得し、現任校をよりよい学校へと改善する中心的役割を担うことのできる教員を養成します。

スペシャリストコース　現職教員　勤務経験７年程度、またはそれ以上を対象

これまで教科や分野・領域の指導や実践的研究で修得してきた専門的知識や実践力をもとに、専門性を深めることにとどまらず当該教科や分野・領域の知識や考え方を教科や領域を超えて、日常から未来に広がる学びを創り出す教員を育成します。

（設定するプログラム）

- スーパーサイエンスティーチャープログラム—SSTP（Super Science Teacher Program）
- スーパーグローカルティーチャープログラム—SGTP（Super GLOCAL Teacher Program）

※グローカルとは、グローバル（Global：地球規模の、世界規模の）とローカル（Local：地方の、地域的な）を掛け合わせた造語で、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する（Think globally, act locally）」という考え方です。

授業実践力向上コース　学部からの進学者

学部での学習を土台として、子ども理解と確かな知識に根差し、子どもや学校・地域の実態に応じた授業を計画・展開できる「確かな授業力」を主軸に子どもの学びをエンパワーする学習集団としての学級を育て、子ども・保護者・教職員から信頼される教員の養成を目指します。

特別支援教育コース　現職教員 | 学部からの進学者

現職教員及び学部からの進学者などを対象に、特別支援教育に関する理解を深め、障害など特別な配慮を必要とする児童生徒一人ひとりに応じた教育が行える実践力、特別な配慮を必要とする児童生徒の家庭の理解・支援を行うことができる資質能力を高めます。

＼ 皆さんの受験に際して、入試説明会・受験カウンセリングを実施します。／

▶教職大学院を受験する皆さんを対象とした入試説明会及び受験カウンセリングを実施し、試験概要の説明や入学後のサポートを行っています。入試説明会・受験カウンセリングの詳細については、教職大学院のウェブサイトをご覧ください。
※なお、試験区分によっては受験カウンセリングを必須としていることがあります。詳しくは学生募集要項をご覧ください。

＼ 現職教員の皆さんへ　働きながらの学びをサポートします。／

▶和歌山県教育委員会からの現職教員派遣により教職大学院へ入学した場合、前半の1年間は教職大学院において研究・履修に専念し、後半の1年間は在職校において勤務と教育実践研究を並行します。研究指導は、大学院教員を中心とした指導チームが現任校を訪問して行います。
▶和歌山県教育委員会からの現職教員派遣により入学した場合、授業料の減額措置があります。詳しくは、入試説明会・受験カウンセリング時にお知らせします。

＼ 教育職員免許状取得プログラムとは ／

▶大学卒業時に中学校教諭1種免許状をお持ちの方で、新たに小学校教諭免許状の取得を希望する学生に対して、教育職員免許状取得プログラムを実施しています。なお、本プログラムの受講に際しては、3年以上の教職大学院への就学が必要となります。詳しくは、入試説明会・受験カウンセリング時にお知らせします。

●カリキュラムの科目区分と必要単位数

専攻共通科目（主に1年次）	コース専門科目（主に1年次）	実習科目（1・2年次）	実習関連科目（1年次）	修了研究（2年次）	合計
20単位	12単位	10単位	2単位	2単位	46単位

●授業科目一覧

専攻共通科目

※ ■…学校改善マネジメントコース・スペシャリストコース・授業実践力向上コース必修　■…特別支援教育コース必修

教育課程・教材研究における今日的課題Ⅰ 必修 必修	特別支援教育と体制 必修 必修	自立活動（特別支援教育）	学校・学級経営Ⅱ
教育課程・教材研究における今日的課題Ⅱ 必修 必修	子どもの権利 必修 必修	道徳教育	学校・学級経営（特別支援教育）
問題行動と保護者との連携 必修	学習過程と評価	生徒指導と体制	和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり
学校と家庭との連携（特別支援教育） 必修	能動的学習の実践的研究	学校・学級経営Ⅰ	

コース専門科目（注：コースによって選択できる科目は異なります）

学校と法	理科実験（中・高）	探究のための教材開発 —音楽表現と鑑賞	探究のための教材開発 —言語活動充実のための教材開発（英語）
学校組織と経営	理科教材開発（中・高）	探究のための教材開発 —健康・体力づくり	探究のための教材開発 —CLIL教材開発
教育と福祉の連携	探究のための教材開発 —統計を使った店舗戦略	探究のための教材開発 —運動指導	特別支援教育推進のための関連機関との連携
授業研究の理論と実践	探究のための教材開発 —水	探究のための教材開発 —体育の授業づくり	知的障害・発達障害のアセスメントとケーススタディ
若手校内研修への支援	探究のための教材開発 —光・宇宙	探究のための教材開発 —言語感覚育成のための国語教材研究	知的障害児及び発達障害児の学習指導
小規模校支援	探究のための教材開発 —米	探究のための教材開発 —思考力育成のための国語教材研究	障害児の生理病理と臨床
学校安全と危機管理	探究のための教材開発 —算数・数学のカリキュラム連携	探究のための教材開発 —基礎基本習得のための国語指導方法・教材研究	特別支援教育とコンサルテーション
授業・教材研究Ⅰ	探究のための教材開発 —統計・データ活用	探究のための教材開発 —地域の変化と持続性の探求	発達障害のある子どもの二次障害の予防と対策子どもの二次障害の予防と対策
授業・教材研究Ⅱ	探究のための教材開発 —プログラミング	探究のための教材開発 —現代社会の成り立ち	特別支援教育の理念と現代的課題
授業・教材研究Ⅲ	探究のための教材開発 —生活者視点の授業づくり	探究のための教材開発 —公共圏の担い手育成のための教材開発	
理科実験（小）	探究のための教材開発 —造形表現と鑑賞	探究のための教材開発 —外国語コミュニケーション能力育成のための指導方法	

実習科目

学校改善マネジメント	スペシャリスト	授業実践力向上	特別支援教育
課題リサーチインターンシップ	課題リサーチインターンシップ	授業参加インターンシップ	課題リサーチインターンシップ
学校実践実習A	学校実践実習A	授業実践実習A	授業参加インターンシップ
学校実践実習B	学校実践実習B	授業実践実習B	学校実践実習A・B
先進校実習	先進校実習	小規模校実習	授業実践実習A・B

実習関連科目

課題分析

修了研究

修了研究

●２年間のカレンダー

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">学生区分</th><th colspan="2">クォーターⅠ</th><th colspan="2">クォーターⅡ</th><th colspan="3">クォーターⅢ</th><th colspan="4">クォーターⅣ</th></tr>
<tr><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1年次</td><td rowspan="2">学部卒生
現職院生
共通</td><td colspan="2">授　業</td><td colspan="2">授　業</td><td></td><td colspan="3">授　業（11月は実習）</td><td colspan="3">授　業</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">実　　習</td><td colspan="2"></td><td></td><td colspan="3">※毎月、週に一回</td><td colspan="3"></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">課題分析</td><td colspan="2"></td><td></td><td colspan="3">※毎月、週に一回</td><td colspan="3"></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2年次</td><td>学部卒生</td><td colspan="2">実　習</td><td colspan="2">授　業</td><td></td><td colspan="3">実　習</td><td colspan="3">授　業</td><td rowspan="2">修　了</td></tr>
<tr><td>現職院生</td><td colspan="2">実　　習</td><td colspan="2"></td><td></td><td colspan="3"></td><td colspan="3">修了報告書の作成</td></tr>
</table>

教職大学院では４学期制（クォーター制）を採用しています

▶教職大学院では、授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上を目指し、１科目の講義を週に２コマ実施する４学期制（クォーター制）を採用しています。学生にとって、一週間で学ぶべき学習領域が半減することにより、集中的に学ぶことによる教育効果が得られます。

学部卒院生の実習

共通科目の授業の様子

タブレット端末の活用

●１年次の履修モデル

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td>午前
9:10–12:20</td><td rowspan="2">学校実習</td><td>全体ミーティング（研究進捗等の発表会）</td><td>専攻共通科目
（全員受講）</td><td></td><td>専攻共通科目
（全員受講）</td><td rowspan="2">原則お休みですが、研究会や発表会を開催する場合があります。</td></tr>
<tr><td>午後
13:10–18:00</td><td colspan="2">コース専門科目</td><td colspan="2">コース専門科目</td></tr>
</table>

●午前の授業は 専攻共通科目 、午後の授業は コース専門科目 の履修が中心となります。また、年間を通じて 学校実習 や 課題分析 （２年次は 修了研究 ）、課業時間外に授業レポートの作成、個々のテーマのリサーチ、指導教員からの個別指導等が入る場合があります。

●年間を通じて 学校実習 や 課題分析 （２年次は 修了研究 ）、課業時間外に授業レポートの作成、個々のテーマのリサーチ、指導教員からの個別指導等が入る場合があります。

衣斐 哲臣	教授	教育福祉分野
IBI Tetsuomi		
今村 律子	教授	被服学
IMAMURA Ritsuko		
岡崎 裕	教授	教育方法・教科教育法
OKAZAKI Yutaka		
菅 道子	教授	音楽科教育
KAN Michiko		
木村 憲喜	教授	物質環境化学
KIMURA Noriyoshi		
島津 俊之	教授	人文地理学
SHIMAZU Toshiyuki		
添田 久美子	教授	教育行政・教師教育
SOEDA Kumiko		
武田 鉄郎	教授	障害児心理学
TAKEDA Tetsuroh		
谷尻 治	教授	学級経営
TANIJIRI Osamu		
寺川 剛央	教授	工芸
TERAKAWA Takao		
富田 晃彦	教授	天文学
TOMITA Akihiko		
豊田 充崇	教授	情報教育
TOYODA Michitaka		
林 修	教授	保健体育科教育
HAYASHI Osamu		

南垣内 智宏	教授	数学教育
MINAMIGAITO Tomohiro		
矢野 勝	教授	運動学
YANO Suguru		
伊澤 真佐子	准教授	道徳教育・教科教育法
IZAWA Masako		
岩野 清美	准教授	社会科教育
IWANO Kiyomi		
尾上 利美	准教授	英語科教育
ONOE Toshimi		
北山 秀隆	准教授	代数学
KITAYAMA Hidetaka		
宮橋 小百合	准教授	教育課程・教育方法
MIYAHASHI Sayuri		
竹澤 大史	講師	障害児心理学
TAKEZAWA Taishi		
藤本 典子	特任教授	外国語活動・教科教育法
FUJIMOTO Noriko		
森下 まちこ	特任教授	学校経営・教科教育法
MORISHITA Machiko		
柏野 貴之	特任教授	学校経営・教科教育法
KASHINO Takayuki		
中田 善夫	特任教授	学校経営・情報教育
NAKATA Yoshio		

小規模校実習

現職院生の実習（2年目）

模擬授業後の協議

「教員採用試験への対策も充実」

まだ教員採用試験に合格していない授業実践力向上コースと特別支援教育コースの学部卒院生のために、採用試験対策も充実しています。

①教職キャリア支援室との連携

和歌山大学の進路支援の取り組みの1つである「教職キャリア支援室」では、校長経験者による個別面談、面接練習、小論文の添削等、院生の希望する自治体に応じて個別に支援を行っています。和歌山大学教育学部OBによる模擬面接や、試験対策講座も実施しています。

②教職大学院での試験対策

担当指導教員による週1回のマンツーマンでの面談に加え、月2回の定期テストの実施や直前の面接対策等、採用試験に備える取り組みを実施しています。また、各院生の授業力の課題を見い出すための「課題分析」の授業内で行う模擬授業は、採用試験の対策にもなっています。

模擬授業を実施している様子

板書の練習、指導

面接対策も行っています

修了生VOICE

熊代 紀保（学校改善マネジメントコース修了生：串本町立串本小学校　教諭）

地域の魅力を子ども達と感じながら

私が勤務する小学校は、本州最南端の串本町にあります。児童数の少ない小規模校が多いです。子ども達は、男女・学年を問わず仲が良く、休憩時間になるとサッカーや遊具遊び等に興じています。地域の方々も親和的で温かく、教育活動に協力的に関わって下さいます。

恵まれた環境で教員生活を続けてきて、いつしか中堅教員になっている自分を振り返った時、教師としてのスキルアップやより実践的な教師力の向上を図る必要性を感じ、教職大学院に進学しました。

１年目は、月曜日に勤務校でインターンシップ活動、他の日は大学院棟で学びながら、学校改善にかかる課題リサーチとプランニングを行いました。２年目は、地元の現任校に戻り、学級担任業務を行いつつ、研究課題「課題を探究する子どもの育成～総合的な学習の時間を通して～」に取り組みました。古くから伝わる「河内祭」の調べ学習を起点に、児童一人ひとりが、知りたいこと・調べたいこと・伝えたいこと等を探究していく活動を行いました。探究的に学ぶことの楽しさや魅力を実感し、地域のよさを知り、それを発信していく子どもの育成を目指しました。

大学院の体験は、これまで取り組んできた実践と理論が結びつき、今まで見えなかったことが見えてくる、驚きと喜びの連続でした。また、和歌山県各地に切磋琢磨し合える院生仲間ができたことも貴重な財産となりました。

中山 裕介（授業実践力向上コース修了生：横浜市立みなと総合高等学校　教諭）

私が好きな社会科の面白さを伝えたい、そんな思いから中学校社会科の教員を目指して和歌山大学教育学部へ。授業力のさらなる向上を目指して教職大学院に進学しました。

１年目は、毎週月曜日のインターンシップ実習、初任者研修プログラムへの共同参加、小規模校実習など多くの実践的な経験と学びがありました。２年目は、４月と９月に１ヶ月間の実習があり、自らの課題に向き合いながら実習を行いました。

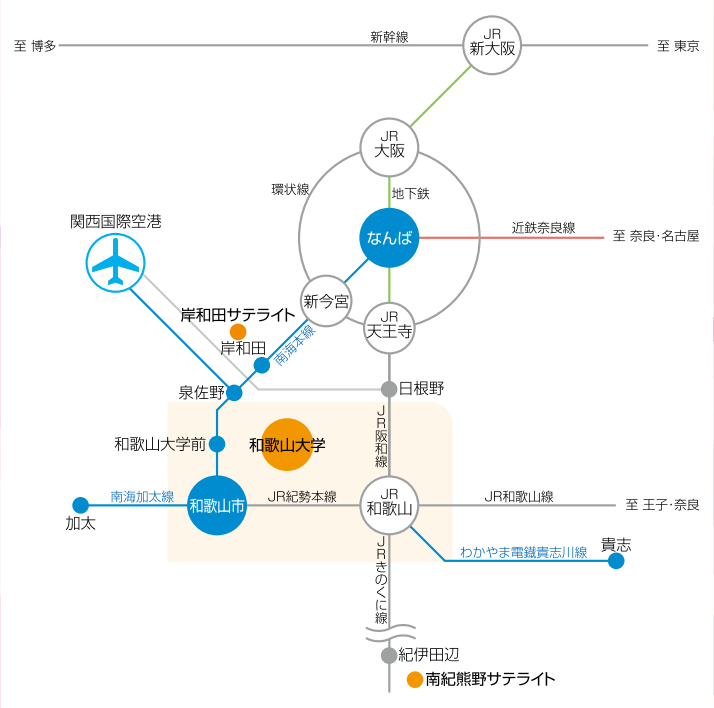
院での学びで一番大きかったのは、目の前の子どもたちの実態に合わせて授業を創造することの大切さに気づけたことです。自分が面白いと感じた教材をそのまま授業で伝えるというより、教材研究において取捨選択し、さらに子ども一人ひとりの発言を活かした授業づくりを心がけるようになりました。また、授業後に自分自身の授業の物足りなさを感じられるようになりました。これまでの私は、自分自身の授業のどこが課題なのか気づくことができず、ただ、何となく自己満足で終えていた面もあったからです。

私がこのように授業づくりへの視点・姿勢が変わったのは、教授陣の講義はもちろんのこと、毎日席を共にできる学校改善マネジメントコースの現職院生の方々や同期の院生らとの何気ない日常の会話も大きかったです。今は、目の前の子どもの実態に合わせた授業の創造を追求して日々授業づくりを行っています。

ポートフォリオ

名　　称	和歌山大学大学院教育学研究科教職開発専攻
課　　程	専門職学位課程（教職大学院）
修了年限	2年（但し、授業実践力向上コースで教育職員免許状取得プログラムを選択する者は3年以上）
修了要件	本研究科に2年以上在学し、教職開発専攻で定めた修了認定に必要な授業科目46単以上を修得した者
取得できる学位	教職修士（専門職）（Master of Education for Professional Development）
取得できる教育職員免許状	学校改善マネジメントコース・スペシャリストコース・授業実践力向上コース：小学校教諭専修免許状・中学校教諭専修免許状（各教科）・高等学校教諭専修免許状（各教科）／特別支援教育コース：特別支援学校教諭専修免許状（知・肢・病）　※それぞれ対応する1種免許状が必要です。

●電車でのアクセスマップ



●アクセスマップ

南海「和歌山大学前」駅から和歌山バスで約4分
南海「和歌山市」駅から和歌山バス(6番・7番乗場)で約20分
JR「和歌山」駅から和歌山バス(4番乗場)で約30分

●お問い合わせ

和歌山大学大学院教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）
Add. 〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930
Tel. 073-457-7537

Mail. pde-edu@ml.wakayama-u.ac.jp

Web. https://www.wakayama-u.ac.jp/edu/graduateschool-postgraduatecourse/pde-edu/

和歌山大学公式マスコット　わだにゃん

2021. 6. 発行